

裾野市 ぽんぽん石脇こども園 副園長 大澤 豊先生



お腹（ぽんぽん）の中のような安心感ある場所であるように。そして、感動や喜びがたくさん（ぽんぽん）生まれる時となるように。と名付けた系列園の開設から九年が経ち、この度、ぽんぽん石脇こども園（定員七五名）が、令和六年四月一日に開園しました。

お腹（ぽんぽん）の中のような安心感ある場所であるように。そして、感動や喜びがたくさん（ぽんぽん）生まれる時となるように。と名付けた系列園の開設から九年が経ち、この度、ぽんぽん石脇こども園（定員七五名）が、令和六年四月一日に開園しました。

主導となり準備をしてきたお祭りや相撲大会。その過程のドラマは、ドキュメンタリーシヨンで保護者と共有をして子どもと保護者職員が一丸となり迎えた当日の雰囲気は凄まじいものがありました。他にも、年長児が指導役と裏方をやる年中児のための音楽会のオペレッタ。年長児の保護者には、製作側にいる子ども達の日々の姿を参観してもらいました。子ども達が多くの役割の経験とたくさんの感情を覚える環境設定をこれからも心掛けていきたいと思っています。

ただ、当園は一年目。数年間は出来ることに限りがあると思っています。まずは、子ども達の心に寄り添い、焦らず、一生懸命でできることをやる。そして、「生きるって楽しい」を持ち続けられる人生であるために、「生きるって楽しい」を感じ取れる環境であり続ける。という理念に基づいた職員間の価値観の統一を、時間をかけて、失敗や挫折を繰り返しながらも築いていきたいと思っています。

カリキュラムや行事にしばられず、たった今ここで生まれた心に触れ、子どもと保育者が共に学び合える空間を目指してきた保育は、紆余曲折ありながらも、それが表現できるようにになり、また、保護者にその価値を認めてもらえるようになってきたと自負しています。

約一年という長い期間をかけ、子ども達が

園舎は、富士山がバックにそびえ立つロケーションに、幼児と乳児が東西に分かれた設計になっています。その中央には、食事を楽しく取れるように、扉を開けるとオープンキッチン仕様になる給食室と、吹き抜けのランチルームを設置しました。幼児の教室前には、アトリエコーナーを設置し、数多くの資材を



子ども達が自由に選択できるように配置する予定です。園庭には、季節を感じることを出来る樹木と複合遊具、砂場、すり鉢サークル、アトリエパーゴラ、築山、ジオトープ、ヒューム管トンネル、畑等を用意し、

普段の遊びを充実させることを意識しています。また、近くを流れる川の、万が一の水害から身を守るため、一時避難が可能なロフトとベランダを整えました。

「大好き」がいっぱいある園で、夢中を積み上げていく環境づくりに邁進しながら、地域に愛される園を目指していきたいと思っています。また、先輩方が築き上げてきたこの業界に、新たな力として微力ながら貢献していきたいと思っています。何卒、よろしくお願いたします。

